

「岡山市消防教育訓練センター 水難救助訓練施設」が 完成しました

消防職員の水難救助訓練と、市民が水災害から身を守るための模擬体験ができる水難救助訓練施設が完成しました。風水害に特化した体験施設は、全国でも珍しいケースです。運用開始に先立ち、落成式や報道関係者向け内覧会を行いますので、お知らせします。

1 運用開始日

消防職員用プールエリア	令和7年4月1日(火)
風水害体験エリア	令和7年5月23日(金)

2 場所

岡山市消防教育訓練センター 水難救助訓練施設(南区浦安南町 南消防署敷地内)

3 内容

この施設は、消防職員が水難救助事案等への災害対応能力を向上させるための訓練施設として、令和3年度から整備を進めていたものです。消防職員の訓練はもとより、市民が実際に模擬体験を通じて水災害への防災意識の向上を図れるよう、体験型の学習施設を併設したことが特徴です。複数の風水害の実体験ができる同種の施設は、政令指定都市では初めてとなります。

■当施設の概要

- ・敷地面積 約7,861.78㎡(南消防署含む)、延べ床面積約772.16㎡ 地上3階
- ・職員用プールエリア…多目的プール(25m×8m、水深3m)、潜水プール(直径6m×深さ10m)
- ・風水害体験・学習エリア…流水歩行体験や風雨体験など

※施設の詳細は別紙にてご確認ください。

■落成式

令和7年3月29日(土) 10時~10時30分(雨天決行)

◆出席者

岡山市長、消防局長、消防団長、市議会関係者、関係機関代表者等 計32名

(別紙あり)

◆内容

市長、消防局長の挨拶、テープカット等。式典終了後は、消防隊員による水難救助訓練や浦安少年消防クラブ、機能別消防団員による風水害体験のデモンストレーション、施設見学を行います。



水難救助訓練施設



多目的プール



潜水プール



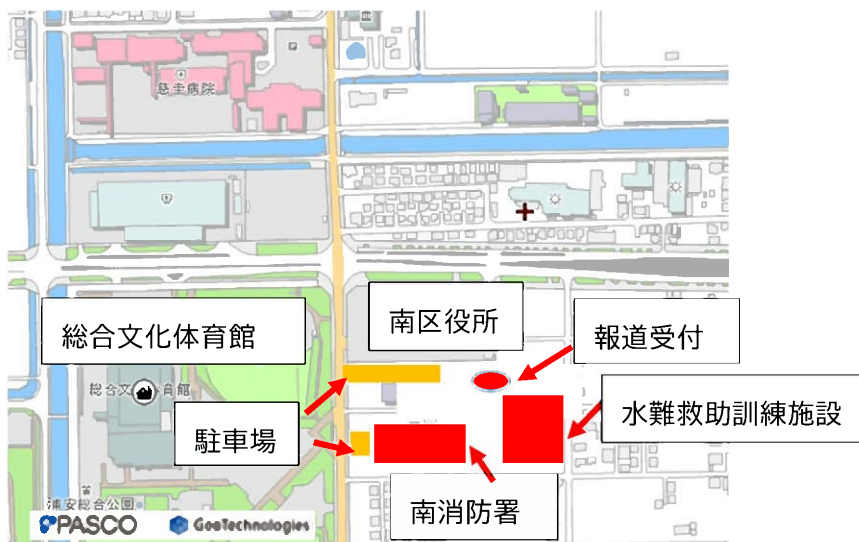
風雨体験

4 その他

- ・駐車場については、係員の誘導に従い駐車するようにお願いします。
- ・当日、報道受付で資料を配布します。

5 報道関係者向け内覧会について

- ・3月27日(木)10時より報道関係者向け内覧会を実施します。取材を希望する社は事前にご連絡下さい。(風水害体験を希望される社は連絡時にお伝えください)
- ・内覧会の様子は、実施当日から報道していただいで結構です。



【問い合わせ先】

岡山市消防局 消防企画総務課 柳本・吉久 直通 086-234-9970 内線3770

岡山市消防教育訓練センター 水難救助訓練施設について

資料1

水難救助訓練施設



平成30年7月豪雨災害の経験から、消防職団員の災害対応力の強化と安定した訓練環境の確保、市民が風水害の模擬体験を通じて、防災意識の向上と行動変容につなげるために「プールエリア」「風水害体験エリア」で構成された施設を整備したものです。

■施設概要

- ▶ プールエリア(多目的プール、潜水プール)
- ▶ 風水害体験エリア(啓発映像、展示ホール、水圧自動車ドア体験、水圧ドア体験、流水歩行体験、風雨体験)
- ▶ 事務室、研修室×2、更衣室、倉庫(エレベータ、電気室、機械室)等

■構造・面積

- ▶ 構造:鉄筋コンクリート(RC)造3階建て
- ▶ 敷地面積:7,861.78㎡(南消防署含む)
- ▶ 建築面積: 751.04㎡
- ▶ 延床面積: 772.16㎡
3F:147.77㎡、2F:300.09㎡、
1F:324.30㎡

多目的プール



■多目的プール(屋外)

- ▶ 長さ25m×幅8m×深さ3m
- ▶ プール水槽内に監視カメラ、監視窓、照明なし(プールサイドへは照明有)
- ▶ 水量約560㎡(t)
- ▶ 水面、水中での水難救助訓練、ゴムボートを使用した救出訓練など、様々な水難救助事案を想定した訓練が可能。



潜水プール



■潜水プール(屋内)

- ▶ 直径6m×深さ10m
水槽内垂直はしご×2あり
- ▶ 水深3m(2F)、7.5m(1F)に監視窓、監視カメラ、照明あり。監視カメラの映像は、3F訓練待機室のモニターで確認可能。
- ▶ 水量約270㎡(t)
- ▶ 水深10mでの水難救助事案を想定した訓練が可能。



啓発映像/展示ホール



- 啓発映像、展示ホール
災害を「知ること」、災害に「備えること」、自分を「守ること」をコンセプトにした、見て感じて自分を守る方法が学べ、岡山市の過去の水害を知り、早期避難の重要性について考える構成としています。

岡山市消防教育訓練センター 水難救助訓練施設について

資料2

水圧ドア体験



事前に2つの水圧ドア体験装置に水深20cmまたは30cmと水深50cmのメモリの位置まで水を張りませす。体験者は先に水深20cmまたは30cmの水圧ドアの開放体験を行い、次に水深50cmの水圧ドア開放体験を行い、水深（水圧）によりドアの開放が困難になることを体感していただきます。

水圧自動車ドア体験



実車に乗り、冠水を想定した状況で自動車ドアを開放を体験します。水深20cmから50cmまでの設定で体験が可能です。また、ドアや窓の開放が困難となり脱出ができなくなった際の緊急脱出方法も学びます。

風雨体験



体験者は胴長靴と合羽を着用して、1回目は風速約13m/sから約20m/sまでの風を体験していただきます。2回目は大雨（80mm/h）を加えて風雨の中を歩いて体験していただきます。強風の中の避難も危険ですが、そこに激しい風雨が加わると、周囲が見えなくなり、さらに危険になるということを体験していただきます。

流水歩行体験



体験者は胴長靴を履いて、流水歩行体験装置の中を2回通り歩き体験します。1回目は秒速1mの流水で水深30cm及び50cmの水域の中を歩いて往復し、2回目は秒速2～3mで同様に歩いて往復します。水深と流速の異なる体験を通して、浸水域等での歩きにくさを体験していただき、災害から身を守る上で、何より大切なのは浸水前に避難することを選んでいただきます。

水難救助訓練施設ロゴ、マスクトキヤラクター

